

NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金 2021年度活動報告書



3・11甲状腺がん子ども基金
3・11 Fund for Children with Thyroid Cancer

NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金

【事務局】〒160-0003

東京都新宿区四谷本塩町 4-15 新井ビル 3階

☎ 03 5369 6630

✉ info@311kikin.org



【ご寄付】

●郵便振替

記号番号 00100-3-673248

口座名 3・11甲状腺がん子ども基金

●銀行振込

城南信用金庫 営業部本店

普通預金 847987

特定非営利活動法人 3・11甲状腺がん子ども基金

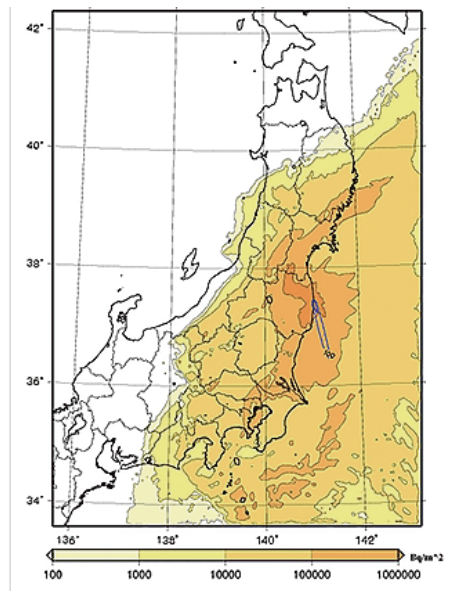
子どもたちの未来のために

2011年3月、東京電力原子力発電所事故により、
放射性物質が放出されました。

チェルノブイリ原発事故で子どもの甲状腺がんが増えた経験から、
福島県では、子どもたちの甲状腺の状態を把握し、
健康を長期に見守ることを目的に、
事故当時18歳以下で福島県にいた38万人を対象に
甲状腺検査がおこなわれています。
これまで福島県県民健康調査で甲状腺がんと診断された人は
270人を超えています。

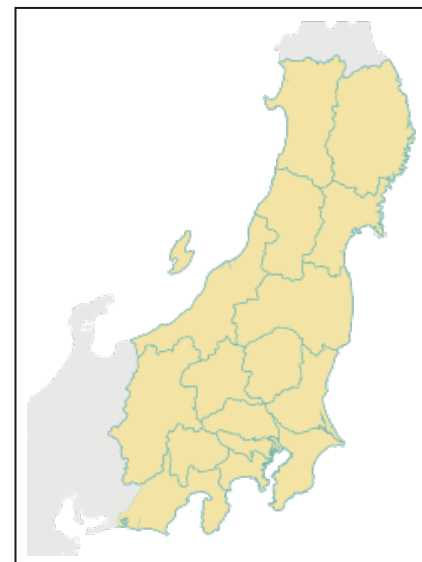
3・11甲状腺がん子ども基金は、

国の研究機関が発表した放射性ヨウ素拡散シミュレーション図に基づいて、
福島県を含む1都15県で甲状腺がんと診断された人に療養費を給付しているほか、
一人ひとりの不安や悩みにこたえられるサポートをめざし、活動しています。



出典：日本原子力研究開発機構

日本原子力研究開発機構による
放射性ヨウ素拡散シミュレーション図



基金の給付対象地域
(原発事故当時の居住地)

※福島県の県民健康調査甲状腺検査は2011年10月に開始され、20歳までは2年に一度、20歳を過ぎると5年に一度、
超音波による検査が行われています。これまでに、検査の問題点が多々見つかっています。(p9をご覧ください)



ごあいさつ

福島県民の甲状腺検査は5巡目に入り20歳以上の節目検診と合わせて検討委員会で公式に発表された甲状腺がん当基金の指摘が契機となって明らかになった集計漏れの方などを合わせると300人を超えています。しかし集計漏れが出る制度的な欠陥は、指摘されてから5年以上経っても改善されていませんし、不正確な罹患者数をもとに放射線被ばくとの関係が分析され、放射線の影響は否定されています。そして多発は過剰診断のためであるとして学校での検診は縮小の方向に向かい、甲状腺検査の受診率はコロナの影響も加わって低下し続けています。このような状況をがん診断された福島県内外の当事者はどのように捉えておられるでしょうか。

2回目のアンケート調査の結果をもとに行ったオンライン・シンポジウムは多くの皆さまから高い評価を頂きました。その成果をまとめた報告書は多くのメディアにも取り上げられ、県民健康調査課、県民健康調査検討委員会委員、環境省などにもお届け致しました。基金のウェブにも掲載され無料でダウンロードできますのでご活用いただけましたら幸いです。

また、当基金の活動とは異なりますが本年1月に6人の甲状腺がんの若者が東京電力を相手に損害賠償訴訟を起こし、社会的なインパクトを与えました。事故から11年となった3月には、当事者及びその家族のメッセージや参加によるオンライン・シンポジウムの第2回目を開催しました。その報告書もまとめる所存です。

本年度もコロナ感染が衰えを見せずその影響を受けられた方も多かったため、昨年に引き続きコロナ対策支援を継続致しました。このような支援活動を継続できますのもみなさまのご理解とご支援があつてこそと、心よりお礼を申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年7月

NPO 法人3・11 甲状腺がん子ども基金

代表理事 橋山比早子

(医学博士、東京電力福島第一原子力発電所
事故調査委員会[国会事故調] 委員)



療養費給付事業

東京電力福島第一原発事故以降に甲状腺がんと診断された方に、療養費として経済支援をしています。国の研究機関が発表した放射性ヨウ素拡散シミュレーション図に基づいて、福島県を含む1都15県で甲状腺がんと診断された方が対象です。

療養費の用途は、医療費にかぎらず自由です。手術前後の検査や体調不良のために仕事やアルバイトを休んだり、保護者が通院や手術立ち合いのために仕事を休んだりされていることもあり、医療費以外の出費もかさむからです。当事者のQOL向上のため、傾聴に根ざして一人ひとりの不安や悩みにこたえられるサポートをめざし、活動しています。

●対象者は？

甲状腺がんと診断された方のうち、原発事故当時（2011年3月）に18歳以下で、下図の地域に住んでいた方が対象です。

対象の都県



- 秋田県 岩手県 山形県
- 宮城県 福島県 茨城県
- 栃木県 群馬県 埼玉県
- 千葉県 東京都 神奈川県
- 新潟県 長野県 山梨県
- 静岡県

基本給付

甲状腺がんと診断された方 **10万円**

追加給付

再発・転移等による再手術を受けた方	アイソトープ治療を受けた方	アイソトープ治療複数回の方
10万円	10万円	2回目以降1回につき 5万円

アイソトープ (RI) 治療とは

アイソトープ治療とは、甲状腺がん細胞が肺など遠隔の組織に転移した場合に、放射性ヨウ素のカプセルを飲んでがん細胞を破壊する治療です。甲状腺全摘後、再発を防ぐ目的で残った甲状腺組織を取り除くために行うアブレーション治療も含まれます。

●給付金額は？

基本の給付金額は表のとおりですが、他にも、ひとり親の方への付加給付や妊娠・出産への支援金、通院交通費の助成など、さまざまな支援を行っています。



再手術とは

再発や転移によるもののほか、甲状腺がんの種類や治療上の判断によって手術が複数回になったケースも含まれます。

第6期療養費給付事業

第6期は、対象年齢が2021年度に満29歳になる方までとしました。通院交通費の助成や、昨年度から開始した妊娠・出産の支援金も引き続き取り組んできました。

そのような中、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大が継続する状況を踏まえ、「第2回新型コロナウイルス対策支援金」に取り組みました。今年度も105人の方から申請があり、新型コロナウイルスに感染された方がお一人ありましたが、幸い、症状は軽症で済んだとのことでした。

新型コロナ禍で福島県の甲状腺検査が滞っていること、各医療機関でも手術延期などの対策がとられていたことも影響してか、今年度の新規申請は少なかったのですが、福島県で事故当時幼かった人の再手術やRI治療が目立ち、懸念を感じさせるものとなりました。

【第6期給付実績】（2021年4月1日～2022年3月31日）

★第6期の特別支援：コロナ対策支援金

新型コロナウイルス感染拡大により、生活上の影響が出ている方 5万円
感染された場合 10万円

新規申請	4人（福島4）	} 2,550,000円
再手術	4人（福島3、県外1）	
RI（複数回含む）	10人（福島7、県外3）	
付加給付（ひとり親、コロナなど）	6人（福島3、県外3）	
妊娠・出産支援金	2人（県外2）	
通院交通費助成	18人（福島14、県外4）	541,052円
コロナ対策支援金	105人	5,250,000円

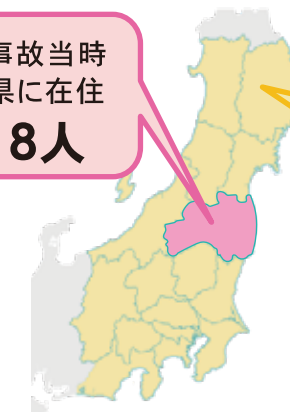
2021年度療養費給付金額
合計8,341,052円

※これまでの給付人数は、特例の方を含めると延べ186人、給付総額は約4300万円です。

福島県 118人（男性54人、女性64人）
県外 62人（男性13人、女性49人）
特例 6人

原発事故当時
福島県に在住
118人

事故当時
福島県以外の
1都14県に在住
62人



給付人数	延べ186人
給付総額	約4250万円
（2016年12月～2020年3月末）	

【参考】福島県県民健康調査の現状

※このほか、がん登録に登録されていても下記に含まれない人が43人以上と発表されています。（8月1日甲状腺評価部会）

	1巡目検査 (11-13年度)	2巡目検査 (11-13年度)	3巡目検査 (11-13年度)	4巡目検査 (11-13年度)	5巡目検査 (11-13年度)	節目検査 (11-13年度)	計
悪性ないし 悪性疑い	116 (良性1)	71	31	37	6	13	274 (良性1)
受診者数	300,472 (81.7%)	270,552 (71.0%)	217,922 (64.7%)	183,383 (62.3%)	45,860 (18.1%)	8,163 (9.3%)	

（2022年5月13日検討委員会発表より）

調査に基づいて

ヒアリングによって把握できた
現状に追加支援

第2回新型コロナウイルス対策支援を実施(6月10日～10月10日)

新型コロナウイルスのまん延に伴い、社会経済的な影響は全国的に続いています。この状況を受け、基金は、療養費給付の一環として第2回新型コロナ対策支援金の実施を決め、6月から申請を受け付けました。1回目は「ほかにもっと大変な人があると思い、遠慮しました」という方もいました。何人かの方の状況を紹介します。

甲状腺の検査を、手術を行った病院で定期的に行っているが、その病院でクラスターが発生したため、やむなく検査の予約を延期した。在宅勤務でパソコンなどを準備するために出費が増えた。アルコールなど感染予防のための出費が増えた。転職を考えているが、コロナ禍のためか求人が少なく、県外の面接にも行きにくいので転職先が見つからない。(20代女性・福島)



私が、先月上旬に新型コロナ陽性になってしまい、自宅待機中はアルバイトができず、家族も濃厚接触者となり外出ができなかったため仕事に行けず、この期間の収入がなくなりました。また、消毒液などの衛生関係品の購入や通信販売での食料の購入で出費がかさみました。期間中は、自宅療養で完全に部屋を閉め切った状態で過ごしていました。甲状腺がん



関係で服用しているチラーヂンやアルファカルシドールは変わらず服用して構わないとの事でしたので、特に気をつけたことはなかったです。(10代女性・県外)

甲状腺がん転移手術。コロナの事があり、約3週間現職を休業し、その分給与所得が減少した。(20代男性・福島)



東京への通院後、私(母)は2週間の自宅待機※になり、収入が減りました。子供も2週間の学校休み。(10代男性の母、県外)



※勤務先の決まりで、感染者の多い東京に行くと、帰宅後自宅待機になるとのこと

私の職場が介護関係なので、子供、家族が風邪症状などある場合は出勤停止(欠勤)になるので、収入が以前に比べ減っています。去年から新型コロナウイルスの影響により会社から支給されるボーナスも減りました。私一人で子供達を養っている生活なので、コロナの影響で生活状況がだいぶ変わりました。(10代男性の母・福島)



通っている学校でコロナウイルスによるクラスター感染が発生してしまい、休校になり、感染対策や食事などの出費が増えてしまった。私(母)が失職してしまったため、家族の収入が減ってしまった。お世話になっております。



いつも色々なサポートをしていただき、とてもありがたいです。2回目の特別支援金、本当に助かります。ありがとうございます。(10代男性の母・福島)

相談とフォローアップ

傾聴とつながりという直接支援

当事者の状況を知って、支援につなげる

当事者の状況を聞き取り、ニーズをさぐり、必要な支援に結びつけています。療養費の対象地域でないところからも相談の電話が入ることもあり、情報入手し、お伝えすることもあります。



◎手のひらレターで情報の共有

- 手のひらサポートの受給者の方々には、ほぼ季刊で「手のひらレター」をお送りしています。
- 第2回コロナ対策支援金など新しい支援のお知らせ、手のひらサポートのさまざまな支援の内容、基金のイベントのお知らせなど、情報の共有につとめています。



◎林竜平さんが、顔出し・実名で、当事者としての意見を表明

2021年3月、はじめて当事者が参加した第1回シンポジウムで発言してくれた林さんは、その後、ご自身の顔と実名を出して、メディアの取材などにもこたえてくださっています。

原発事故後、福島県の甲状腺検査を毎回受けており、高校1年で受けた3回目の検査でがんが見つかり、手術に至りました。顔出し・実名で発言する気持ちに至ったのは、昨今、福島県の検査で見つかる甲状腺がんは、手術の必要のないがんを見つけている『過剰診断』であり、検査にはデメリットがあるので縮小すべきというような意見が、県の検討委員や国会議員からも出されていることに、当事者として異議を唱えるためでもありました。みつかった腫瘍は声帯の近くにあり、放置すれば声が出なくなるリスクもあるものだったため、「県の検査が早期発見につながり、ありがたかった。甲状腺検査を縮小することなく、継続して欲しい」という率直な思いを語ってくれました。



2021年4月25日、東京新聞



◎アンケート報告書を受給者の皆さんに送付

昨年度行った受給者の皆さんへのアンケート、10月に報告書として発刊しました。この報告書を受給者の皆さん全員に送付しました。コロナ禍が続き、交流の場もなかなか持てない中で、自分以外の甲状腺がんの方たちの状況や悩み、必要なサポート、甲状腺検査についての考えなど、なかなか知る機会の少ないことがらについて、紙面での交流の場となっています。



◎「甲状腺がんと妊娠Q&A」のパンフレットを作成・配布

事故から10年が経ち、甲状腺がん手術後に妊娠・出産される方も増えてきました。アンケートでも手術後の妊娠・出産について心配する声が多かったため、妊娠・出産に対する支援を開始するとともに、申請した方々にアンケートをお願いしました。ご自身の妊娠中の甲状腺科への診察状況や、経験者としてほかの方へのアドバイスなどを答えていただきました。

これらの経験談をもとに、甲状腺専門医のご協力を得てQ&Aをまとめ、先輩ママからのアドバイスを加え、12頁の「甲状腺がんと妊娠Q&A」のパンフレットが完成しました。6月に受給者全員に送付し、たいへん好評でした。

- 甲状腺がんと妊娠
- 先生からの解説
- 妊娠したら内分泌科(甲状腺科)にも受診を
- 妊娠と放射線治療
- 甲状腺がんと遺伝
- 甲状腺とヨウ素
- 甲状腺専門医からのまとめのアドバイス
- 先輩ママからのメッセージ

甲状腺の値の管理は自分自身も赤ちゃんにも大切なので、病院はきちんと行きましょう!

妊娠中は、普段より食べ物に気をつけなければいけないことがあります。

母親学級でも、甲状腺疾患のプレママが何名かいらっしゃいました。皆さんお薬などでコントロールしながら、出産をすごく楽しみにされていました。私も手のひらサポートのみなさまや病院の先生方のサポートのおかげで安心して毎日過ごしております。

今回の妊娠Q&Aすごく知りたかったことで、入っているのを見て即読ませていただきました。ネット社会で調べるとたくさん出てきて、何をどこから調べればいいのかわからなくて。また主治医などにもまだ結婚もしていないので、そこから妊娠について聞いても早過ぎるしと、なかなか聞かずにいました。今回本当に知りたい情報がシンプルにわかりやすく載ってて助かりました。そしてクリアになって安心しました。ありがとうございました。

パンフレット拝見いたしました。気になっていたけど、誰に聞いたら良いかわからなかった点…そんなところが細かくまとまっており、私も細部まで確認させていただきました。特に経験者の方の声は非常に励まされる場所がありました。昨今、甲状腺に関わらず不妊治療をしている方が多い時代となりましたが、少しずつ不安を消していこうと前向きになりました。ありがとうございました。



情報発信・普及啓発

◎当事者アンケート報告書の発刊、検討委員会関係者にも送付

福島原発事故から10周年を期して昨年行った甲状腺がん当事者アンケート。福島県70人、県外35人(本人・保護者)の貴重な声をまとめ、10月15日に報告書『原発事故から10年 いま当事者の声をきく』を発刊し、記者会見を行いました。報告書の発刊は福島民報、福島民友、朝日新聞、読売新聞、河北新報など多くのメディアに取り上げられました。全国からのご注文をいただいています。



Webサイトでは無料のPDF版を掲載

冊子版の販売と共に、Webサイトでは無料のPDF版を掲載しています。報告書は、手のひらサポート受給者はもちろんのこと、県民健康調査検討委員、同甲状腺評価部会員、そして県立医大病院の医師にも送付しました。このほか、国会図書館、福島県立図書館、福島大学、福島学院大学などの図書館にも納めています。

一人でも多くの方に、甲状腺がん当事者の実情、思い、必要としていることなどを知らせていただき、甲状腺がんをめぐる正確な調査研究の実現と、何よりも当事者にとってより良い支援の拡充につなげていきたいと思っております。

◎当事者と共に福島県民健康調査課へ申し入れ・記者会見

福島県の学校での甲状腺検査について、県民健康調査検討委員会の一部の委員から、「過剰診断」につながる理由で検査縮小となるような主張がなされていました。それに対し、基金では当事者と共に、県民健康調査課への申し入れを行いました。

5月31日はオンラインでの面談となりました。基金の申請者データおよびアンケート結果から、福島の甲状腺検査が早期発見に有効であることを示し、学校検査を縮小することなく継続するとともに、甲状腺がんの正確な手術例を迅速に把握してほしいと申し入れました。当事者として林竜平さんが同席されました。面談後にはオンラインでの記者会見を行い、甲状腺がんの当事者も検査継続を望んでいることが福島民報、福島民友で報道されました。



10月20日は福島に赴き、県庁隣の自治会館で県民健康調査課と面談しました。当事者の林さんと共に、基金からは崎山代表含め3名が出席し、アンケート報告書を県民健康調査課に直接手渡しました。当事者の思いをしっかりとわかってサポートしてほしいと伝え、林さんからも「アンケートには当事者の不安や憤り、要望が込められている、支援の拡充につなげてほしい」と訴えました。面談後の短時間、記者の質問を受け、福島民友での報道となりました。

2022年3月は、17日午前福島県庁記者クラブ、午後オンライン会見を予定していましたが、前夜の福島県沖地震のため中止。シンポジウム後にオンラインでの会見を行い、当事者3人が出席しました。会見では「過剰診断」の解釈について基金への質問や、当事者に対して、「そっとしておいてほしいのか、それとも状況を伝えたほうがよいのか」という質問がありました。3人は、「伝えて欲しい。そのためにこうして出てきているのだから」と、当事者の声が届くことの希望を語ってくれました。

上記の他、アンケート報告書ならびに林さんの会見での発言などは、以下(枠内に記載)で報道、紹介されました。さらに、福島県から各地に避難している方々向けのニュースター(埼玉の「福玉だより」、岡山の「ほっとおたよりNEWS」)や市民団体のニュースターなどでも紹介されました。

月刊『政経東北』4月号、4月25日/東京新聞、6月4日/週刊金曜日、7月10日/1・女のしんぶん、7月19日/東京新聞、7月31日/しんぶん赤旗、10月29日/アワープラネットTV、2022年3月21日/アワープラネットTV、月刊『政経東北』3月号



◎ 独自の広報

今年度は、療養費給付活動、報告書発刊、シンポジウムの広報を、WebサイトやSNSのほか、フリーペーパーのリビング福島・郡山、いわきのコミュニティ紙「日々の新聞」など福島県内での広報に力を入れました。

◎ 学会などでも発表を行いました

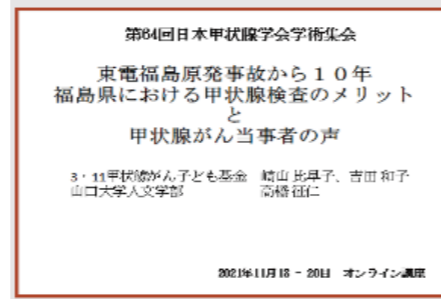
日本甲状腺学会で発表 — 専門家へ実情を伝える

2021年11月18-20日に行われた日本甲状腺学会学術集会で、「東電福島原発事故から10年、福島県における甲状腺検査のメリットと甲状腺がん当事者の声」として基金崎山・吉田と山口大学高橋教授連名で発表を行いました。

今後も学会等での発表を行い、専門家にも甲状腺がんの子どもたち・若者たちの実情を届けていきたいと思えます。



リビング福島(2022.2.8)



第8回震災問題研究交流会で当事者アンケートについて発表

当事者アンケートに協力いただいた山口大学高橋征仁教授が、3月、第8回震災問題研究交流会で「甲状腺がんの若者と歩む〈復興〉への道—世論とアイデンティティ管理」と題して発表されました。この交流会は、日本社会学会の研究活動委員会を中心に設けられた震災問題情報連絡会から発展したものです。発表にあたっては、基金の崎山、吉田も名を連ねました。「表に出にくい当事者たちの声を聴くことの重要性」として、当事者アンケートの結果が紹介されました。



海外へも発信

フランスのエネルギーコンサルタントであるマイケル・シュナイダー氏等が毎年出している『世界核産業の現状レポート』2021年版で福島原発事故後10年の特集が組まれました。それに崎山が東電原発事故の健康影響について寄稿しました。2022年1月には同レポートについてのオンライン発表会が行われ、崎山がその内容を報告しました。

3・20シンポジウム 「原発事故と甲状腺がん 当事者の声をきくvol.2」開催

3月20日、シンポジウム「原発事故と甲状腺がん—当事者の声をきく vol.2」を開催しました。コロナ対策をとりつつ、郡山の会場とオンラインのハイブリッド開催を予定し準備を進めていましたが、直前の3月16日未明、福島県沖でM7.4の地震が発生しました。交通機関を含む大きな被害が出たことから、やむなくオンラインのみの開催となりました。



第1部

「いま福島県の甲状腺検査は」と題して、崎山代表が甲状腺検査の現状と問題点について報告しました。その中で、基金の申請者で事故当時10歳未満だった人が、より年長の人に比べ再手術やRI治療を受けている割合が高いことを、懸念される現状として報告しました。

第2部

まず、20代の2人の女性（福島県と関東の方）と、10代の息子さんをもつ2人のお母さま（福島県）のメッセージを紹介しました。お子さんは二人とも10歳で甲状腺がんがみつかり手術を受け、その後転移がみつかり、昨年放射線治療を受けました。お子さんの健康・将来を思うお母さまのメッセージは、視聴者に深い印象と感動を与えました。

この後、事故当時福島県在住だった20代の4人が発言されました。その一部を紹介します。



もも子さん(27歳女性)

「事故から時間が経つにつれ、検査の受診率も下がり、世間の関心も当時より少なくなってきていると思いますが、まだまだ手厚い支援が必要だと思っています。当事者も多くが20代となり、新たなライフステージを迎える人も多く、不安や悩みも変わってきていると思うので、そういった声を定期的に聞いて、それに寄り添った支援をしてもらいたいです」と支援の重要性を訴えてくれました。



松本さん(28歳男性。昨年のシンポジウム後に放射線治療を経験)

「乳頭がんと宣告を受けて、その瞬間、本当に頭が真っ白になって何も考えられなくなったことを覚えています」「宣告されてから今まで、つらい時期もあったんですが、そういう時に手をさしのべてくれサポートしてくれた基金の皆様本当に感謝をしています。若い世代だったり、これから手術を受ける方に、何か伝えられることがあったらいいなと考えております」と、自身の体験をほかの人にも役立てたいと語ってくれました。



鈴木さん(25歳女性)

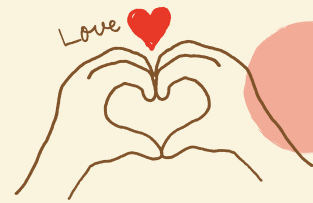
「ホルモン剤のチラーゼンを飲み忘れると一日倦怠感や心や体に影響が出てくるので、甲状腺というのは重要な臓器だと実感しています。精神面で悩んでいる方がいて、甲状腺がんを患っている方がいたら我慢せずに検査に行くことが大切だと思います」と、甲状腺のはたらきと術後の状態についてのアドバイスをくれました。



林竜一さん(21歳男性)

「去年の10年というのが節目ではないというのは心のなかでは分かってはいるんだけど、でもキリが良いのは事実で、それこそ震災そのものであったり、我々が患者というものが、少し印象が薄れてしまっているのかな、というのが正直なところです」「自分はこうやって顔を出して発言する機会があれば、どんどんしていきたいなと思いますし、自分が発言することで、ちょっとでも勇気を出してもらえたりとか、ちょっとでも前向きに生きる人が増えていただけたらいいなと思っています」と、顔を出し、実名で発言する思いについても語ってくれました。

★この後、アンケートに協力いただいた山口大学高橋教授と基金の吉田と4人との質疑を行いました。シンポジウムの記録については、今後、まとめを作成する予定です。



あたたかいご支援があつてこそ

原発事故から10年を超えた今年度、コロナ禍で社会全般に厳しい経済状況が続く中、また国内外で大きな事件も起きていたなかでしたが、多くの方が甲状腺がんの子どもたち・若者たちへ変わらぬご支援を寄せてくださいました。一部になりますが、ご紹介します。

ご逝去された賛助会員の方のご遺族が、そのご遺志を継いで甲状腺がんの子どもたちに毎年ご寄付を下さっています。また、高校生時代に甲状腺がんを発症し、その後は子どもの命を守るための活動に力を注がれ、原発事故後の甲状腺がんの子どもたちにご自身を重ね、心を痛めつつ、昨年逝去された方のご遺族からも、お志を継いだ多額のご寄付をいただきました。ご冥福を祈り、感謝申し上げます。



6月、福井県あわら温泉で行われた国際ヨーガデーのイベントで、甲状腺がん子ども基金のためにクラウドファンディングを立ち上げてくださった齊藤素子さん。原発事故直後からいわき市などで避難された方の心身の疲れを癒す活動をしてこられました。ヨーガデー当日は、崎山代表もオンラインで挨拶を寄せました。齊藤さんは、甲状腺がん手術後の体調改善のためのヨーガレッスン動画作成にも協力くださっています。



◀原水禁長野県協議会の皆さんは、福島の子どものための物資販売を行われ、その収益からのご寄付を、基金事務所に届けて下さいました。

ベルリン在住の音楽家の皆様は、以前もチャリティコンサートを開いて下さいましたが、2020年1月に第6回の「甲状腺がんの福島の子供たち支援コンサート」を行われ、コロナ禍で渡航も厳しいなか、帰国された方が募金を届けて下さいました。▶



1928年に設立され、生活の勉強・環境・子育てなどについて勉強されているという歴史の長い女性団体「函館友の会」から、10周年を期し、ふたたびご支援をいただきました。

生活クラブ生協のみなさまからは、東日本大震災復興支援活動の一環として、基金の設立以降、毎年ご支援をいただいています。

個人で、毎月のようにご寄付を届けてくださる方もいらっしゃいます。

ここに記しきれない、多くの皆さまが、甲状腺がんの子どもたち・若者たちに心を寄せ続けて下さっていることに、深く感謝申し上げます。



2021年度会計報告

貸借対照表(2022年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
現預金	44,636,641	未払金	278,300
貯蔵品	41,910	預り金	47,777
前払費用	50,496		
		正味財産の部	
資産合計	44,729,047	正味財産額	44,402,970
		負債及び正味財産合計	44,729,047

収支の内訳(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

収入		支出	
受取寄付金	21,516,045	事業支出	13,610,853
受取会費	1,022,000	(うち療養費給付)	8,341,052
その他収益	334,098	管理費	1,567,649
収入の合計	22,872,143	支出の合計	15,178,502

*事業支出とは、基金のすべての事業にかかる経費です。なお、詳細な決算報告はWebサイトにて公開しています。

ご支援いただき、ありがとうございました

今年度も新型コロナウイルス禍が継続しました。みなさまにおかれましても困難な日々をお過ごしのことと幸いです。そのような中で、今年度も多くのご寄付をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。皆さまのご厚意を、子どもたちへのサポートにしっかり生かしていきたいと思っております。

3月のシンポジウムには、今年も福島の若者4人が出演し、発言してくれました。原発事故から11年。声を上げ始めた当事者の思いをしっかりと受け止め、さまざまな課題解決の道をひらいていければと思います。これからも、ご支援よろしくお願いいたします。

継続的なサポートをしてくださる方は、ぜひ賛助会員にご登録ください

賛助会員年会費

個人	一口	3,000 円
非営利団体	一口	5,000 円
企業	一口	30,000 円

【ご寄付】

●郵便振替
記号番号 00100 -3-673248
口座名 3・11 甲状腺がん子ども基金

●銀行振り込み
城南信用金庫 営業部本店
普通預金 847987
特定非営利活動法人 3・11 甲状腺がん子ども基金
(Webサイトの寄付お申込フォームのご記入をお願いします)

●クレジット決済も可能です



2022年度の取り組み

2022年度もコロナ禍が続く中での活動となる可能性もありますが、対面でのイベントもできるよう、工夫していきます。昨年・今年と当事者の若者が甲状腺がんの経験を語る場が実現でき、また福島県への申し入れも行うことができました。今後も、当事者の声を多くの方に届けることを目指します。

一方、昨年度、再手術や放射線治療を行う方が複数ありましたが、事故当時年少者の方が年長者よりその割合が高いという、心配される状況がありました。今後どのように変化していくかは予断できませんが、しっかりとサポートしていきたいと思えます。また、福島県の甲状腺検査については、引き続き検証を進めていきます。

療養費給付事業 第7期(2022年4月～2023年3月)

**皆さまのご支援で療養費の増額が可能に！
受給者にもさかのぼって追加給付します。**

昨年度は原発事故10周年や報告書発刊、イベント開催などで、当事者の発信も多く、全国からの寄付が寄せられました。甲状腺がんの子ども・若者・ご家族へのご支援の思いに応え、療養費の増額(各5万円)を行うこととしました。既に受給された方にも、さかのぼって給付の予定です。

療養費項目	これまでの給付額	新しい給付額
基本給付(診断/手術)	10万円	15万円
再手術	10万円	15万円
RI(アイソトープ)治療	10万円	15万円
RI治療複数回	2回目以降5万円/回	10万円/回

※妊娠・出産支援金(5万円/回)、通院交通費助成金(年間5万円まで)の額は変更ありません。
そのほか、ひとり親など事情のある方への付加給付など、事情に応じて対応します。

給付対象

1992年4月2日以降に生まれた方で(今年度、30歳になる方まで)、
原発事故後に甲状腺がんの診断ないし手術を受けた人。
対象地域は、p3の地図を参照ください

**さらに手厚い支援となった「手のひらサポート」を
まだ基金の声が届いていない方々に知っていただくために
広報活動に一層努力します。**

相談・フォローアップ

◎甲状腺がん手術後の体調改善などに向けた取り組み

セラピーヨガの動画作成:当事者アンケートに記された健康上の「悩みや心配」に対応した受給者向けのヨガレッスン動画を、医師でありヨガインストラクターの齊藤素子さんのご協力で作成しました。

レッスンは5つ。身体をスッキリさせたい時、自律神経調整で免疫力アップなど、必要な項目を、好きな時間、好きな場所で行うことができます。動画の表紙(サムネール)は、シンポジウムで発言して下さった鈴木さんが作成して下さいました。



◎当事者同士のつながりを

コロナウイルスの感染状況を勘案しつつ、できれば対面での当事者交流会の実現をめざします。

調査・提言と情報発信

◎第2回シンポジウム「原発事故と甲状腺がん—当事者の声をきく vol.2」のまとめを作成

第1部「いま福島県の甲状腺検査は」、第2部、当事者からのメッセージと発言、山口大学高橋教授と基金事務局から当事者への質疑も含め、シンポジウムの記録をまとめます。

◎福島県県民健康調査課、検討委員会への要望・意見交換の場づくりをめざします

昨年度に引き続き、当事者の声を行政や福島県の検査関係者に伝え、甲状腺検査を巡る問題の解明や当事者の望むサポートの実現を目指します。

◎甲状腺検査の問題点や、甲状腺がん当事者の実情を広く伝えます

今後も、学会発表、シンポジウムなど、甲状腺検査の問題点や当事者の声を広く伝えていきます。